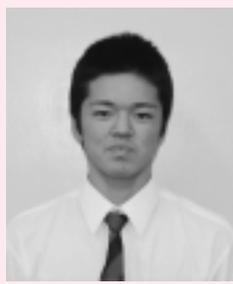


中学生が肌で感じた

マレーシアとシンガポール

成田空港開港30周年を記念して、国際的視野を持った人材育成を目的に、(財)成田国際空港振興協会が主催した青少年海外派遣事業。空港周辺の中学生22名が参加し、本町から神崎中3年生の野村拳輔くんと小林ゆいかさんが参加しました。参加者は8月21日から27日までの7日間、マレーシアとシンガポールを訪れました。

シンガポール航空の超大型旅客機A380に往復搭乗し、環境学習や空港見学、現地中学生との交流など、普段の生活ではなかなか体験できない研修や異文化に触れた一週間。二人が経験した内容を紹介します。



野村拳輔くん

僕は、海外派遣に行つてとてもたくさんさんの貴重な経験をしました。

特に思い出に残っていることはまず、マレーライオン公園に行つて実物のマレーライオンを見たことです。実物のマレーライオンは、想像よりも全然小さかったので

とても驚きました。

現地中学生との国際交流会をしたこともとても印象に残っています。授業でやっていることは日本とそれ程違いはありませんでした。絵を描いたり、小物を作ったり、踊ったりしました。

その後、現地中学生に現地の民族舞踊や歌を披露してもらいました。みんな上手で驚きました。日本の中学生は歌・空手・阿波踊りを披露しました。結構喜んで



マレーライオン(上)、シンガポールモスク前にて

でもらえたのでうれしかったです。その後の昼食では、日本のおもちやで遊んでプレゼントしました。短い時間でしたがとても楽しかったです。

この体験は一生の思い出になると思います。それこれから、この体験を生かしていきたいと思っています。



小林ゆいかさん

8月下旬、私はマレーシア・シンガポールへの海外派遣の機会をいただきました。この海外派遣は私にとって初めてのことで、とてもワクワクしていました。

特に印象に残っていることは、マレーシアの中学生と交流したことです。

言語や風習などが違う中で、うまく交流ができるのかと、とても心配でした。

しかし実際に交流をしてみると、決して上手くはない英語でも通じることができ、とてもうれしく思いました。

現地の踊りや歌は、やはり日本とは曲調も違いますし、衣装はとてもきらびやかでした。とても中学生とは

思えないほどの踊りや歌でびっくりしました。現地の中学生は、とても楽しかったと、言ってくれたのでよかったなと思いました。この海外派遣を通して、いろいろな経験ができ、とてもうれしく思います。この経験をこれからの生活に生かせれば良いなと思います。



シンガポール航空トレーニングセンターにて